

「対話」と「協同」のある学びの授業スタンダード

※保清の行き届いた学習環境で、ざわつきがなく、しっとりとした雰囲気で授業を開始したい。

はじめ

授業の最初の10分間は黄金の時間 (コの字)

- (1) 机が離れていないか、机の上にいらない物を置いて精神的なバリケードをつくっていないか。
- (2) ドリルや復習に時間をかけると学びから潰れる生徒が現れる。⇒できるだけ5~7分以内でグループにしたい。(グループで何をやつたらいいかが分かるような的確な課題提示)

9分

最初の小グループ活動 『共有の学び(教科書レベル)』

- (1) できるだけ素材やモノを媒介した「問題解決的思考」の活動を組み込む。
- (2) 教師は、すぐにグループへかかわらない。まず、まかせてみる。本当にかかわらなければならぬグループや子どもをじっくり見極める。※「1分ルール」突っ伏した生徒には1分以内に声をかける。
- (3) 学びが停滞しているグループ、学びから外れている生徒がいるグループへの積極的な支援を行いたい(教えるのではなく、あくまで支援に徹する。教えてしまうと、教師の教えを待つようになり、他の生徒に依存しなくなる)。生徒の目線に合わせるために、しゃがんで聴く。「いい先生は、ズボンにしわができる」
- (4) 「できた人は分からぬ人に教えてあげて」は禁句。「教え合いはお節介、学び合いはさり気ない優しさ」
- (5) 分からなくて困っている生徒が、友達に依存できるような関係をつくる。「ここどうしたらいい?」「教えて!!」学びが成立しているのは、「ボソボソ」と「こことこう」、「こうじゃない」「A君に訊いてごらん」訊くことができない生徒には、分かることと分からぬことを分けてあげて、教師がかかわって、仲間とつなぐ。
- (6) グループ活動は10分を目安に、暇をつくらせないよう、どんどんテンポよく!
- (7) いくつかのグループで追求が終わっていると感じたり、騒々しくなってきたら、全てのグループが課題解決できなくても中断し、全体(コの字)にもどす。解決できたグループに発表させるではなく、中断されたグループに自分達が解決できたところまでを発表してもらい、その後は全体で考える(全体につなぐ)。

※ 4人グループでやる最大のメリットは、(誰もが参加せざるを得ない状況への)強制力。「島」にして「孤立」させる。教室の真ん中を空けすぎない。グループをくつ付けすぎない。

20分

全体でのすり合わせ (場合によっては省略可)

- (1) 教師のポジショニング 教室に立った時に一番端の生徒とも必ずつながり、生徒と生徒をつなぐ位置取りを考える。
- (2) 教師のトーンを落とし、教師も生徒もテンションを下げる。
- (3) 教師が一方的にしゃべらない(教師の発言2割)。意図的な指名「発言は女子7割、男子3割がちょうどいいくらい!」いつ、誰が指名されるか分からぬ状況にして、指名された時に答えられるよう、聽かざるを得ない緊張感を持たせる。
- (4) 生徒に訊くときは、訊く内容を先に、名前を後に!名前を先に言うと、他の生徒が考えなくなる。
- (5) ゆっくりしたテンポで、間を大事に「待つ」姿勢を!生徒の発言にすぐに反応しない。
- (6) 生徒とのかかわりを柔らかにして、じっくりと対話する(「つなぐ」「もどす」言葉かけを!)。

2回目の小グループ活動 『ジャンプ課題(教科書以上のレベル)』

- (1) クラスの半分くらいの生徒に「わからない」と言わせるような「背伸びとジャンプのある」高いレベルの課題を設定する。学力が低いほど、高いレベルの授業をする。
- (2) ジャンプ課題とは、一人では解決できず、仲間と交流することによってしか解決できない課題。※ジャンプができない時は、ヒントとかアドバイスなど、何か仕掛けを用意する。ヒントを早く出すとお節介。

40分

全体でのすり合わせ (コの字)

- (1) 「つなぐ」言葉かけ
 - ①「Aさんの意見を聞いて、どう思う?」
 - ②「Aさんの言いたかったこと、誰か話してくれる」
 - ③「Aさんの意見と似ている人はいない?」
 - ④「AさんとBさんの考え方のどこが違う(同じ)?」
 - ⑤「もう少し詳しく話してくれる?」
 - ⑥「○○を見てどんなことを感じた?」
- (2) 「もどす」言葉かけ
 - ①「その考え方、どこからそう思ったのか、教えてくれる?」
 - ②「～って言っていたけど、どういうことかな?」
 - ③「どの言葉からそう思ったの?」(文章に戻る)
 - ④「どうして、そう思ったの?」(テキストに戻る)
 - ⑤「前にも同じようなことはなかったかな?」(既習事項に戻る)

小さい声の生徒へのケア

「あなたの言っていることは素晴らしいから、もう一度言ってくれる?」「素晴らしいことを言っているから聴いてあげて!」

聴いていない生徒へのケア

注意はやる気を削ぐので、近くの生徒から順番に指名するなどして、ごく自然にその生徒に発言の機会を持っていくと、発言のために聴かなければならなくなる。

「A君と同じです。」と答えたたら

「あなたの言葉で説明してごらん!」と切り返す。

50分